

大学における専門職業教育としての

アパレルCAD教授用テキストの開発

東京学芸大学大学院 教育学研究科 総合教育開発専攻 情報教育コース
M01-3308 山本高美

論文要旨

本研究は、大学での専門職業教育として実施する被服構成学の内容を、現代のコンピュータ技術の発展に即して再編成する教育・研究の一環として、アパレルCAD教育に用いるテキストの開発を行うことを目的とする。

研究の方法およびその過程で明らかになった点は、つぎの4点である。

第1に、CAD教育の現状を知ることが目的として、大学・短期大学の被服構成学系の教員に対して調査を行なった。調査結果からは、職業教育としてCAD教育の必要性が高い。しかし、その教育環境は整備されておらず、カリキュラムの構築や授業に使用する教材の開発が急務であることが分かった。

第2に、被服構成学における専門職業教育としての、CAD教育用のカリキュラムを設計した。CAD教育カリキュラムの基礎科目として2科目、応用科目として4科目を設定した。専門職業教育として、CADを実践的に使用できる知識と技術の習得を目指すものである。

第3に、授業に用いるCAD教育用テキストを、CAD教育入門期の内容として有効であり、かつ普遍性を備えた内容として開発を行なった。テキストは、パターンメイキング機能の習得に重点を置く、初期段階では簡単な作図を通して、CADの基礎技術が習得できるようにする。平面作図の基礎も習得できるようにする、アパレルにおける生産システムが体得できるようにする、自学習用として、また学生間の進度差にも対応できるように、演習問題を設ける、等の特徴とした。これらの特徴を持つテキストとして、授業で使用しながらその裏付けをもって編纂した。

第4に、設計したカリキュラムの基礎科目において、CAD教育用テキストを用いた授業実践を行なった。その評価として実施した、実習物の評価、確認テストとも良い点であり、アンケートでは「CADは便利、楽しい」といったプラスのイメージが多く、テキストの内容については「良い、わかりやすい」という評価を得ることができた。

これらの結果から、CAD教育のために開発したテキストの内容は、妥当であり、有効性も高いことが明らかとなった。